令和 5 年（2023 年）度　産学官・地域連携活動報告書

連携先名称：中野市農業協同組合・日本きのこマイスター協会
協定締結日：令和 4 年（2022 年）3 月 11 日
活動状況　：継続中
連携先窓口：中野市農業協同組合　営農部　営農支援課　湯本幸孝　様
　　一般社団法人　日本きのこマイスター協会　理事長　前澤憲雄　様
活動資金　：個人予算
担当教員(所属）：本間裕人（醸造科学科）
活動体制（単位）：大学
関連教員(所属）：徳岡昌文（醸造科学科）　　内野昌孝（分子微生物学科）
　　志波優　（分子微生物学科）　金田憲和(食料環境経済学科)
　　大西章博（醸造科学科）　　後藤逸男（総研）

活動目的：
きのこ産業を軸とした地方創生事業、研究開発事業、人材育成事業、および普及啓発活動に取り組む。

活動内容・成果：
1.「きのこ使用済み培地の有効利用法の模索と、現状の農地還元に伴う諸問題の解決」　ワーキンググループ

・2023 年 6 月 12 日、オンラインにて打ち合わせ：参加人数 7 名（農大教員 2 名、JA 中野市 4 名、日本きのこマイスター協会 1 名）
・2023 年 8 月 23 日・24 日、現地視察：参加人数 7 名（農大教員 2 名、JA 中野市 4 名、日本きのこマイスター協会 1 名）
・2023 年 11 月 8 日、オンラインにて打ち合わせ：参加人数 7 名（農大教員 2 名、JA 中野市 4 名、日本きのこマイスター協会 1 名）
・その他メール持ち回り会議を随時開催

2.　エノキタケ高付加価値化商品開発のための研究参加
JA 中野市が主導するきのこ機能性加工食品開発研究会に本学から本間裕人が参画し、エノキタケ由来天然 GABA 配合機能性加工食品の開発に携わった。

＜成果＞

1.「きのこ使用済み培地の有効利用法の模索と、現状の農地還元に伴う諸問題の解決」　ワーキンググループ
打ち合わせと現地視察を重ね、問題の洗い出しと施設整備計画のアイデアの提案や、発電計画についての可能性の是非等について意見交換を行った。

2. エノキタケ高付加価値化商品開発のための研究参加
エノキタケペーストを一定の環境下で、特定の食品と反応させることによりGABA を強化出来ることを明らかとし、製品開発への提案を行った。

課題・改善点：
「高付加価値化商品開発のための研究参加」では明確でわかりやすい成果を出せたが、「きのこ使用済み培地の有効利用法の模索と、現状の農地還元に伴う諸問題の解決」ワーキンググループについては議論がなかなか進んでいないため、引き続き意見交換と提案を重ねていく必要があると思われる。